

## 2022年度助成分

## ■研究課題名

## Auditors' career variety and expertise development for high-quality audit performance

研究代表者：

亀岡恵理子（東北大学大学院経済学研究科・准教授）

派遣先：

United States, Atlanta, Goizueta Business School at Emory University

実施期間：2022年9月1日～2023年8月31日

## 【研究の概要】

財務諸表監査を取り巻くマクロ経済環境の著しい変化に伴い、監査人のエキスパート開発を巡る研究上の問いが重要性を増している。本研究の目的は、第1に、監査人のキャリア形成の観点から、個人が獲得するいかなる職務経験が異なる種類のエキスパート開発をもたらすのかを調査すること、第2に、チームダイナミクスの観点から、様々な経験とエキスパートを有した個人がどのように組み合わさって監査チーム内で協働すれば、よりよい監査パフォーマンスにつながるのかを調査することである。これらの目的を達成するため、質的研究手法と量的研究手法とを併用する混合研究法を採用する。

第1の目的に対しては、日米の監査人のキャリアデータを用いた文書分析と日本の大手監査法人に所属するパートナーを対象としたアンケート調査を用いてアプローチした。その結果、高品質の業務遂行能力をもつ監査人のキャリアは従来の監査研究で理解されていたような単線型ではなく、複数回の移行を伴う複線型である可能性があること、および監査人のエキスパート開発をもたらす経験は必ずしも監査経験に限らない多様な種類であることを発見した。本研究について、受入先大学のセミナーにて2度、報告の機会を頂戴し、会計学およびそれ以外の領域の研究者から質問やコメントを得た。また、2023年度の日本会計研究学会年次大会（オンライン）で成果公表し、来年以降は国際学会で成果公表するよう、現在1つの学会へ論文を投稿済である。

第2の目的に対しては、現在も進行中であるが、監査人の口コミデータのテキスト分析と実験研究によりアプローチする研究デザインを組んでいる。申請者は従来、質的研究手法に親しんできたが、滞在中、受入先のアドバイザー教員のもとで実験手法を学ぶ機会を得た。その過程で、かねて実施したインタビュー調査から発する問題意識に基づく研究提案を行うことにより、実験研究を採用する新規プロジェクトを国際共同研究として立ち上げることとなった。プロジェクトに関して定期的に議論やアドバイスを受け、ケースシナリオの作成を含む準備を滞在中に終えることができた。今後は実験参加者となりうる実務家からのご協力を得て実験実施、データ分析および成果公表のフェーズへと研究を進めていく予定である。

以上2つの研究目的を果たすうえで、貴財団の研究助成から大きな恩恵を受けた。深く感謝申し上げたい。